

日本経済新聞

9月2日

金曜日

グクラカ 最新型のバナナ追熟設備

青果荷受けのグクラカグループ(岡山県倉敷市、吉田修作代表)は最新型



のバナナ追熟設備を導入し、1日に稼働させたII写真。コンピューターで温度や湿度などを管理し、従来6〜7日かかった追熟期間を4〜5日に短縮で

きる。設備投資額は1億5千万円。従来設備と合わせた追熟能力は1・6倍の年39万箱(1ヶ13ヶ)となり、より広域の量販店への販売を目指す。新設したのは756ヶ収容できる設備が7室。食品機械のドーワテック(横浜市)から購入した。壁際と天井の中央から空気を循環させる差圧式と呼ばれる方式で、効率よく温度管理できる。

従来方式では空気の通りを良くするため、ケースの間を開けてレンジを積みように積み替える必要があった。「差圧式なら搬入されたパレットのまま設備に入れられ、人件費も抑えられる」(グクラカの富本尚作青果事業部長)という。

グクラカが輸入するバナナはフィリピンから青い状態で神戸港に陸揚げし、倉敷に運んで追熟、岡山県全域の取引先に納める。バナナは追熟後に傷みやすくなるため、消費地に近いところで追熟させる利点は大きい。